

令和7年度第5回新宿区外部評価委員会第1部会議 事概要

開催概要

開催日：令和7年8月21日（木）

場所：本庁舎6階 第3委員会室

出席者：

外部評価委員（5名）：竹内真雄（部会長）、戎井一憲、風間義民、大川内初実、大西秀明

区職員（3名）：西澤副参事（特命担当）、奥井主任、西崎主任

議題

1 評価の取りまとめについて

議事要旨

1 評価の取りまとめについて

【主な議論・意見】

経常事業359 災害用備蓄物資の充実

【部会長】

契約関係のことについて、事務局で調べた内容の報告をお願いする。

【事務局】

備蓄物資の入札は品目ごとではなく一括で行っており、納品・回収業務を含む契約の性質上、個別では高額になってしまうためである。ただ、臨時購入や特別仕様の物資については個別の入札も実施している。6年度は4件で、主な落札者は星野総合商事、東京コロニー、サンコー薬品。5年度1件、4年度3件で、東京コロニーが多くを落札している。

【部会長】

独占的とは言えないが、東京コロニーの落札が多い印象。配送に慣れているなどの強みがある可能性はある。6年の入札は星野総合商事が落札しているが、一般競争入札か。

【事務局】

一般競争入札かどうかまでは確認できていない。

【委員】

梱包や回収が契約条件に含まれるとの説明があったが、例えばビスケットやミネラルウォーターなどの備蓄品も、期限が来た際に業者が引き取る契約となっているのか。

【事務局】

支援物品の回収については、すべての物品が回収対象かどうかは未確認。

前回のヒアリングでは、更新期限を迎えた物品の一部は配布しているとの回答もあり、物品によって対応が異なる可能性がある。

【部会長】

納品時には業者と日程調整が必要で、分納になると施設側の対応が煩雑になるため、一括納品には利点がある。一方で、品目ごとの専門性も理解でき、両面に良し悪しがあると感じる。薬品については、サンコー薬品がほとんどなのか。

【事務局】

アルコール消毒液は単体で入札を実施しており、令和4年と令和6年に更新期限の関係でそれぞれ1回ずつ入札が行われ、いずれもサンコー薬品株式会社が落札している。

【部会長】

アルコール消毒液等はコロナ禍を契機に備蓄対象となり、更新時期を迎えている。東京コロニーは薬品類を扱っていないため、サンコー薬品が落札しやすかった可能性がある。

本事業は「適切」と判断し、文言に相反する点はないため、全体として一つにまとめたいと思う。今後の取組の方向性については、具体的な記述を避けて整理し、事務局の案ができ次第確認してメールで共有する。その他意見・感想について、テキストのコピペに関する意見は、最後の行政評価手法への意見に入れることとする。

【委員】

入札に関連して、物資の「回収」という言葉が今回初めて出た印象であり、これまで訓練やイベントでの使用、期限前の活用については聞いていたが、回収は税金や運搬の面で無駄と感じる。更新時には、こども食堂などの場で有効活用する方向性を検討すべきであり、業者への回収よりも地域での活用を促す形が望ましいと考える。

【部会長】

食べ物とか飲物は賞味期限前に消費するような話があったと思うが、回収は具体的にどんなものなのか。

【事務局】

回収している品目が何かというところまでは確認していない。

もう一度、所管課に確認してお答えをしたほうがよいか。

【委員】

食品は期限前に活用すべきであり、トイレなどの非食品物資も、期限後でも使用可能な場合がある。現在では期限切れ商品を格安で販売する店舗もあり、業者による回収よりも、こうしたルートに卸すことで税金の回収にもつながる可能性がある。物資の有効活用の考え方について、改めて確認したい。

【事務局】

期限切れ物資の活用についての意見は、今後の取組の方向性として部会として挙げる形もいいかと思う。食品の有効活用や廃棄以外の活用方法の検討を求める意見として整理すれば、区としても年度末の区の総合判断や今後の対応方針として回答することになる。

【委員】

食品やテントなど品目ごとに耐用年数や性質が異なるため、処理方法も分けて考えるべきである。特にビスケットやクッキーなどは、回収される場合でも社会福祉法人等で再利用される可能性があり、品目ごとの処理方針を明示していただけるとありがたい。

【委員】

回収対象として最も多いのは電池であり、期限切れのまま保管するのは適切でないため回収されている。一方、食品については期限前に消費されるものと認識している。

【委員】

電池は期限切れでも即使用不可ではないが、更新時には余裕を持って処分されるため、他用途での活用が可能である。税金で購入している以上、廃棄よりも区や被災地、子ども食堂などへの配布を検討すべき。回収には費用がかかり、企業側もその分を上乗せしていると考えられるため、回収のみの対応には納得がいかず、有効活用の方針を求めたい。

【委員】

他自治体では、備蓄食品の更新時に、期限間近の乾パンなどを子どもや教職員に配布する例がある。電池の扱いは不明だが、学校では食品を有効活用するケースが多い。

【委員】

今の意見を載せたら回答が来るということでよいか。

【事務局】

食料品などの備蓄物資については、更新時に回収・廃棄するのではなく、有効活用を求める意見として取り上げてもらえば、現状の対応や今後の方針を示す形で回答することになる。

【部会長】

更新対象物品の利活用について、精査・検討をお願いしますと書くと、随分まとめやすいかと思う。

【委員】

食品とか、消耗品とか、ある程度の個別の品目ごとに知りたい。

【委員】

毛布とかもある。

【委員】

品目ごとにまとめて知りたい。消費期限があるもの、ないものといった分け方でも。

【部会長】

更新対象物品については、品目ごとに処理方針や利活用の考え方を精査・検討するよう求めたい。食品、毛布、電池など、それぞれの性質に応じた対応が必要であり、衛生面や機能面の観点から区の考え方を示していただきたい。

テーマ 効果的・効率的な行財政運営

【部会長】

評価結果は、5名全員が「おおむね良好」としているため、「おおむね良好」とする。

評価内容が個別事業に関する記述を含む場合は、該当事業へ移し、テーマ全体では大まかな整理を行う。今後の取組の方向性については、全体的な視点から記述を始め、その他意見・感想に移りたいと思う。

【委員】

在宅避難の重要性が高まる中、区による支援の情報提供はより分かりやすく、具体的であるべきである。昨年度の各戸配布物は一定の効果があったが、未開封や内容の把握がされていないケースも多く、さらなる工夫が必要である。特にトイレ対策については、下水直結型から携帯用・消臭型トイレへの移行が進んでおり、避難所だけでなく在宅避難者にも対応できるよう、余裕を持った追加配備が望まれる。町会による自主的な備蓄も進んでいることから、区としても積極的な支援と整備を進めるべきである。

【部会長】

文言整理をして残す形にしたいと思う。あと、イベント型とか。

【委員】

新宿区はマンションが8割というのは人口なのか、建物のことか。

【部会長】

人口だと思う。

【委員】

区民の約8割がマンション居住で、地震時には下水管の損傷が懸念されるため、使用禁止となる可能性が高いため、消臭袋や凝固剤、ごみ袋などのトイレ用品は必須である。

災害時にはごみの回収も困難となり、1人あたり1週間で約50回分の排泄物が発生することを踏まえると、処理方法の検討が急務である。ふん尿袋の発酵による危険性もあり、ベランダへの保管も現実的ではない。区として、マンホール型トイレや携帯トイレの活用を含め、より具体的かつ実効性のある対策を検討し、考え方を示していただきたい。

【部会長】

この意見に関しては、個別具体的かも知れない。在宅避難への対策は、基本うちも買っているし、マンションでも備蓄していたりするが、やっていない人多分多い。

【委員】

携帯トイレは1回分約100円が相場であり、家族単位で1~2週間分となると相当な費用がかかる。問題は使用後の処分方法であり、災害時にはごみ回収が困難で、ふん尿袋の発酵による危険性も指摘されている。保管場所の確保も難しく、区として処理方法や対策について具体的な考えを示していただきたい。

【部会長】

質問したら、自助を基本にお願いしますと返ってくるのか。

【委員】

携帯トイレの購入は自助の範囲で可能だが、使用後の処分方法が大きな課題である。区による回収の有無や、自宅での保管・処理方法によって自助の内容が大きく変わる。安全かつ現実的な処理方法について、区の考え方を示していただきたい。

【事務局】

在宅避難の推進に関する意見として、支援の充実を求めるとともに、災害時に発生する家庭ごみへの対応も併せて検討すべきといった意見を取り上げれば、区からは災害時のごみ処理に関する考え方や対応方針について、返答することになる。

【委員】

災害時のトイレ後の処理が最大の課題である。食品ごみは少ないと考えられるが、排泄回数は個人差が大きく、1日5回では足りず、実際には7~10回程度が一般的である。

災害時には不安や体調不良で回数が増える可能性もある。携帯トイレの消臭袋は性能差があり、安価なものでは臭気漏れや爆発の危険もある。自助で備えることは可能だが、処分は個人で対応できる範囲を超えており、区で具体的な処理方法や指針を示してほしい。

【委員】

今は防災対策全体のテーマを評価しており、携帯トイレ等の個別具体的な内容は、「災害用備蓄物資の充実」など該当する事業項目に整理して記載してはどうか。意見自体は非常に重要であり、経常事業や個別評価の中で疑問点として追加する形が適切である。

【部会長】

委員の意見は妥当であり、在宅避難体制の充実という大枠で整理し、意見として「災害復旧時のごみ収集体制について計画されているか」といった形で記載するのが適切。危機管理計画等に関連情報がある可能性もあるため、区からの回答を得る形で進めたい。

【委員】

本日は「防災対策の強化」という全体テーマの議論が目的であり、携帯トイレなどの個別論点に偏ることなく、評価対象概要に示された「総合防災対策訓練」や「福祉避難所の

在り方」など、区の方針に沿った議論を進めるべきでは。個別の課題も重要ではあるが、全体の幹を見失わぬよう整理が必要である。

【委員】

ここで取り上げた理由としては、ライフライン事業者との総合防災訓練実施とか書いてあったため、備蓄のほうに持つていかずに、ライフラインの一環として、トイレも入るのではという考え方でここに入れた。どこに入れるかは任せる。

【部会長】

在宅避難体制の充実を図っていただきたい。また、災害時のごみ収集について、復旧段階における収集体制のスキームがあれば示していただきたい。清掃や環境面の対応についても併せて検討をお願いするといった形でまとめるのはどうか。

【事務局】

昨年度の外部評価報告書を見る限り、評価の場で質問を投げかける形式は見られず、「～してはどうか」といった意見の形が一般的である。そのため、災害時のごみ処理や在宅避難の推進についても、最新の動向を踏まえた計画の見直しや更新を求める意見として整理するのがいいかと思う。それに対して区として現行の計画を説明する形になる。

【部会長】

質問は、審査部門から回答いただくのはできないか。

【事務局】

本日の取りまとめには間に合わないため、評価には反映されない。ただし、所管課へ確認し、計画内容や今後の対応方針についての回答をメール等で共有することは可能である。区では「災害廃棄物処理計画」を策定しており、携帯トイレの回収時の留意点など、より具体的な内容も確認の上、意見に反映するかどうかを判断する形で対応できる。

【委員】

質問ではなく意見として、家庭で発生した特に臭気の強いごみについて、避難所に持ち込んで預かってもらえるよう意見を記載することは可能か。避難所にはトイレがあり、利用者も多いため、そこに一緒に置かせていただきたいという意見。

【部会長】

避難所にいる立場からすると、そのようなごみを持ち込まれるのは快く感じられない。これに載せると、委員会としての意見になる。

在宅避難の対応をしていただきたい、それに併せて災害時の廃棄物の回収体制についても検討いただきたいとか、そんな形でまとめてはどうか。

【委員】

意見として述べたかっただけ。ただ、区は住宅環境が狭く、家庭内に臭気の強いごみを長期間保管するのは現実的でない。特に災害時には道路復旧に約1週間を要する見込みであり、その間にごみが爆発するリスクもあるため、対応の検討が必要である。

【部会長】

避難所でごみが爆発してしまうのもよくないと思う。

【委員】

避難所での対応がある程度整っているという前提のもとで申し上げた。もちろん避難所で爆発させたいわけではないが、個人宅よりも環境が整っており、備蓄品として簡易トイレもあると想定されるため、何らかの対応策が考えられるのではないか。

【委員】

災害用のごみ回収は計画にあり、何日後にどこへ持ってきて等、地方でもやっている。

【委員】

災害時の生ごみ回収、特に停電によって冷蔵庫内の食品が腐敗するケースなどを含めた対応はどうなるか。地域防災計画にはごみの回収に関する記載があると思われるが、詳細は確認できていない。従来のように回収車が巡回するとは限らず、指定場所への集積など別の方法が取られる可能性もあると考える。

【委員】

ごみ収集って漬すことになるが、ふん尿のビニール袋が破れたらとんでもないと思う。

【部会長】

災害時の状況は多様であり、事前に詳細な計画を立てるのは難しい。例えば、マンションでは停電により屋上への給水ができなくなるなど、停電の有無で状況が大きく変わる。

また、清掃業務に従事するドライバーの確保状況によっても対応が左右されるため、何日後に何を行うといったことを責任をもって明言するのは困難である。

【事務局】

家庭から出る災害ごみは分別を徹底した上で、公有地等に設置された臨時集積所に排出するよう指導する計画となっている。特に生ごみなどの腐敗性廃棄物は衛生上速やかな処理が必要であるため、優先的に収集する対応を検討している。一方、衛生面に支障のないごみについては、収集体制が整うまで各家庭での保管を求める内容となっている。

【委員】

生ごみは、優先的に処理は考えてくれているということではある。

【部会長】

それ以上書けない。

【委員】

これまで在宅避難について繰り返し述べてきたが、区の防災対策強化の5項目のうち、今回は上位2項目を検討対象としており、今後3~5項目についても検討される可能性があると聞いている。3項目めにはマンション防災、4項目めには被災者支援や罹災証明のデジタル化、5項目めには建築物の耐震性強化が含まれている。

一方、在宅避難に関する支援や指導については明確な記載が見当たらないため、今回の意見としてその点を取り上げた。

【部会長】

マンション防災に入っているかもしれない。

ここでは在宅避難の充実と災害時の廃棄物収集体制についての検討、やってみないと対応できないところはあるが、進めてくださいとかそんな形でいいか。

【委員】

そういうことを具体的に示してくださいでいいのでは。具体的にトイレの問題がある。

それは質問にもなっていないし、ある程度提案にもなるのでは。

【事務局】

示してというのは、既にある計画をもっとPRせよという話か。

【委員】

先ほど読み上げられた計画の内容も含め、全体的に表現が漠然としており、具体性に欠ける印象を受けた。特に新宿区はマンションが多く、西口などでは在宅避難が基本とされているが、実際に災害が起きた際にどうすればよいのか、具体的な対応策が示されていない。例えば、トイレや水、食料など必要なものの量や種類について、区として何を求めているのかを明確に示さなければ、自助の取り組みも難しいと感じる。

【部会長】

平時であれば対応内容を示すことは可能であるが、災害時には停電や道路の寸断、ドライバーの確保状況、燃料の供給など不確定要素が多く、何日以内に何を行うかといった具体的な対応を事前に示すのは困難であると考える。

【委員】

一般的に災害発生後の 72 時間（3 日間）は人命救助が優先され、給水車や物資の供給は行われないとされているため、各家庭で最低 3 日間は自力で生き延びる備えが必要である。区としては「最低 3 日間は備えてほしい」といった具体的な指針を示すべきである。防災意識が高くない区民も多く、備えのない家庭が近隣に頼る事態も想定されるため、自助を促すには、より具体的な情報提供や意識啓発、PR が必要である。

【部会長】

「具体的に示してください」と求めるのであれば、前提条件も併せて示す必要があると考える。最悪の事態を想定すれば、復旧に 1 か月かかる可能性もある。ドライバーの確保状況、停電の有無、道路の通行状況、通信手段の可否など、さまざまな前提が絡むため、具体的な対応を一律に示すのは難しい。

【委員】

在宅避難を前提とするならば、外部の支援に頼るのではなく、自宅内で最低限何を備えるべきかを具体的に示すことが重要である。ドライバーによる回収など外部要因に依存せず、最低限 3 日間は自力で生き延びるための備えを明示すべきである。災害の規模によっては想定外の事態も起こり得るが、まずは「3 日間は自分で対応する必要がある」という前提を区民に周知し、具体的な備蓄例の提示など、積極的な PR を行うべきである。

【部会長】

「何かを示せ」と求めるのであれば、もはや平時ではないという前提に立つ必要がある。つまり、状況ごとの前提条件を明確にしなければ具体的な対応を決めることは難しく、「示すのは無理」というのが実情である。ただし、計画自体は既に存在している。

【委員】

新宿区には「防災ハンドブック」があり、自助・共助・公助の考え方や、家庭で備えるべき品目、災害時の持ち出し品などが詳しく記載されている。こうした資料を「必要な人は取りに来てください」という受け身の姿勢ではなく、積極的に配布し、防災訓練や防災フェアなどの機会を通じて広く周知すべきである。在宅避難を含め、自分の命は自分で守るという意識を高めるためにも、防災対策の啓発活動に一層力を入れていただきたい。

【部会長】

それでお願いする。あと、イベントの防災訓練によりサバイバル防災訓練って書いてある、このサバイバル防災訓練って何か正式の言い方があるか。

【委員】

サバイバル防災訓練とは、自力で生き延びる力を養う訓練である。従来の訓練は避難所に行けば整っている前提で進められていたが、実際には水や食料の確保、けが人対応など自助が求められる場面が多く、自助力を高める訓練が必要である。

【委員】

参加型訓練とか。

【部会長】

参加型訓練でいいのでは。このあたりは在宅避難に向けた体制強化とあと区の計画の啓発活動とか、そういった形でまとめて、あと訓練の強化とかも含めてまとめていきたい。

その他意見・感想、これでいいか。

【委員】

工学院の防災キットについて、担当課に繰返し質問したが、納得できる説明がその場で得られず、評価の場でクローズできなかった。実際には、工学院のキットは「飲み水の確保」など機能別に構成され、訓練でも繰返し使用できるようラミネート加工されているなど、優れた特徴がある。こうした情報が提供されていれば、評価もスムーズに行えた。

今回のやり取りを通じて感じたのは、評価そのものよりも、評価に必要な材料が適切に提供されていなかったことが大きな問題であるという点である。評価資料をもとに質問し、回答を得て評価するという本来の流れが成立せず、議論が拡散してしまった。評価は評価として行うべきだが、求めた情報に対して説明が不十分な印象を強く持った。

【委員】

ヒアリングを重ねる中で疑問が次々と生じ、質問に対する回答がその場で完結しないことに課題を感じた。ただし、担当課も調査に努めてくれた点は評価している。今回のテーマは複数の分野にまたがっており、担当者一人では即答できない内容も含まれていた可能性がある。区役所内的人事異動などもあり、対応が難しい面も理解できるが、答えられない場合は周囲と連携して調査・回答する体制が望ましいと考える。

【委員】

今回の工学院のキットは、防災対応の根幹に関わるものであり、なぜこれを採用したのかという理由は明確に説明されるべきであったと考える。たとえ担当者が異動等で不在であっても、選定理由は組織として引き継がれるべき。工学院が区内にあり、優れた資源を活用していることは大きなアピールポイントであり、その点を活かしてほしかった。

【委員】

最初からこの資料がついていれば、みんな納得できる。

【委員】

これは行政評価手法の意見もあるが、感想として書き加えていただきたい。

【部会長】

役所の監査では、通常課長が責任者として対応するが、実務に詳しい係長が同席することが多い。東京都の監査では、担当者が入れ替わり立ち替わり訪れる形式が一般的であり、課長は挨拶のみを行い、詳細な説明は係長などに任せるという対応が多く見られる。

【委員】

外部評価とは別の観点で、今回の件は一つの意見として、区内部で対応を検討すべき課題であると感じた。

【事務局】

今回のテーマに関する「その他の意見」としてまとめるのであれば、ヒアリング時に必要な情報が十分に得られなかつことを踏まえ、「知識のさらなる研鑽に努めてほしい」というような表現にする形はどうか。

【委員】

その内容でまとめていただいて構わない。また、工学院のキットが非常に優れたものであることから、それを区として積極的にアピールしてほしい。あるいは、区内部で共有し、理解を深めた上で広報に活かしてほしいという要望である。

【委員】

現在の区民防災組織に防災訓練や避難所運営を任せている点については理解している。また、区長が地域防災協議会を通じて町会加入を推進していることも認識している。しかし、町会に加入しているか否かに関わらず、防災訓練や災害対策は地域全体で取り組むべき課題である。中野区の例を挙げてその重要性を訴えたが、「他区の事例だから」として取り合ってもらえたかったことに失望した。本当に真剣に考えているのか疑問を感じた。

【委員】

委員の指摘はもっともある。確かに、我々が新宿区の職員であれば配慮するが、外部委員である以上、言うべきことは率直に言わなければならない。区民を代表する立場として、我々が声を上げなければ誰も言わない可能性があり、発言することは必要である。

【委員】

一区民としてという立場であるから。

行政評価手法への意見

【部会長】

現在までの意見を踏まえ、最終的な意見のまとめに入りたい。意見の整理にあたり、行政評価手法への意見ではあるが、部会としての意見として出すのか、委員個人の意見として出すのか、またそれが公に冊子へ掲載される形になるのか。

【事務局】

現時点では確定していないが、毎年発行している冊子の「今後に向けて」という章に、行政評価についての意見をまとめて記載することを想定している。内容は、挙がった意見をジャンルごとに整理し、文章としてまとめる形になる見込みである。現段階では、箇条書きで意見を提出してもらい、次回の全体会にて第1部会、第2部会、第3部会それぞれの意見シートを並べて確認する予定である。なお、意見に氏名を記載するか否かは未定。

【部会長】

おっしゃることは載せたほうがいいし、取りあえず全体会では第1部会の意見はこうでしたと言ってみるのは絶対やったほうがいい。

課長がヒアリングに出なきゃいけないというルールは。

【事務局】

ない。

【部会長】

慣例で何となく、課で一番責任者だからという感じか。ヒアリングは課長1人だけというルールも特にならない。

【事務局】

ない。

【委員】

総合政策部の内部評価シートはすばらしかったとあるのは非常に興味がある。

【委員】

この部会で扱った事業には、取組と課題が全く同じ内容のセットが複数存在した。

第3部会で提出された資料は、文言が一部重複しているものの、必ず違いが見られた。

作成者が内容をよく考えて記述していることが読み手として伝わってきた。

【委員】

区の部や課によって差があるということか。

【委員】

今回、両方の部会に出たことで、特に印象に残った。情報システムを担当する課長が回答された場面では、システムエンジニアとしての視点から、非常に丁寧に問い合わせに応じ、きちんとクロージングしていた点が印象的であった。業務に真摯に向き合っている姿勢が傍聴していて強く伝わってきて、我々が担当した部分との間に差が感じられた。

【委員】

所管によって差があったことは、はっきりと記載すべきである。褒めている部分もあるし、褒めていない部分もあるから、それは明確に書いたほうがいいかもしれない。

【委員】

意見は箇条書きで整理し、第2部会・第3部会の内容と比較する形で全体会に提示することが望ましい。現時点では公表の形式は未定であるが、第1部会としての意見を全員で共有し、さらに議論を深める方向で進めたい。

【委員】

提出した意見は、良い点と改善点の両面を意識した。防災評価という統一テーマにより、評価がしやすかった点は第1～第3部会共通の良点である。一方、避難所運営では他所管との連携が不十分であり、縦割りの課題が見られた。特に情報発信は各課が個別対応しており、区民への一貫した提供が困難であるため、連携強化と統括部署の設置が必要である。次回の全体会でこの点を強調したい。

【部会長】

意見の整理については、部会それぞれの視点から全体を分けて捉える形でよいか。これまでの意見は最終的な原稿として扱われるが、行政評価手法に関する意見については第1部会としての今回の取組に対する感想を、全体会で共有する形にしたい。

【事務局】

提出された意見は箇条書きで整理し、3部会間で全体会にて共有する予定である。共有後に、意見の整え方やどこまで公表するかについては、改めて検討する。

【部会長】

コピペの記載については少し書き方を考えて、基本全部生かす形で整理してほしい。

【委員】

今年のやり方とか進め方についてはお二方どうか。

【委員】

テーマが一つに絞られていたことは非常に良かった。評価対象が明確であったため、集中して学習・検討することができた。昨年度のように議論が分散していた場合は評価が困難であったが、今年度は関連性が保たれており、対応しやすかった。

一方で、経常事業の評価項目が複数あり、従来よりも作業量が増えた印象はあるが、テーマが統一されていたことで全体としての整合性は保たれていた。

【委員】

テーマが一つに絞られていたことで、理解しやすく評価も進めやすかった。一方、内部評価シートに同一内容が繰り返されていた点には違和感を覚えた。また、小・中学校の避難所に関する課題では、連携を謳いながら他課との調整がなく、実現困難な内容が継続されていた。こうした文書は、区民の安心のためにも事前に十分な検討が必要である。

【部会長】

一般的に区の職員からすると、ここに呼ばれるというのは嫌というか、怖いとか、あるか。監査は怖いというイメージが強いと思うが、区民と話すぐらいの感じか。

どんな心持ちで臨んでいるのか。

【事務局】

対応の仕方は人による部分が大きいと感じている。特に初参加の方は事前に連絡をくだり、雰囲気を探る様子も見受けられた。質問の意図を詳しく確認する課長もあり、しっかり準備して臨んでいる。基本的には、議会に臨む姿勢で出席していると考えている。

【委員】

所管課長の対応について、以前は区民に寄り添う姿勢が感じられたが、現在は壁を感じるようになった。区民との距離が広がっている印象がある。

【部会長】

意見のところは書いてある内容をまとめて全体会で共有していきたい。

2 事務連絡（今後のスケジュールについて）

【事務局説明】

次回の全体会開催予定、外部評価実施結果の区長報告予定について共有
今後の作業スケジュールについて共有

<閉会>